

30 利水・治水対策の推進について

(国土交通省、厚生労働省、農林水産省)

【内容】

- (1) 「生活再建工事」の段階とされている設楽ダムについては、水没者等が安心して速やかに生活再建に取り組むことができるよう、用地補償等の生活再建対策の着実な推進を図る予算措置を行うこと。
また、設楽ダム建設事業の再検証については、多くの方々から幅広く意見を聴いた上で、検討を進めること。
- (2) 水害や土砂災害から県民の生命・財産を守り、安全で安心な社会生活を実現するため、直轄事業を推進すること。特に、庄内川については、洗堰の締切りに向けて、河川改修事業を早期に完了させること。
- (3) 平成20年8月末豪雨災害に対する再度災害防止を図り、流域住民の安全で安心な生活を確保するため、伊賀川、広田川、砂川、占部川及び鹿乗川の床上浸水対策特別緊急事業を強力に促進すること。

(背景)

「生活再建工事」の段階とされている設楽ダムについて、国土交通省は「生活再建対策は継続する」という方針を示しているが、平成22年度に続き、平成23年度予算においても、水没者等の生活再建の柱とも言うべき補償のための予算がわずかしか計上されておらず、地元では高齢者も多く、不安な声が上がっている。

設楽ダムは、検証対象として位置付けられ、現在、「関係地方公共団体からなる検討の場」が設置されており、地方での検討においては、「検討の場」における議論を深めるとともに、多くの方々からの意見を聴くことが重要である。

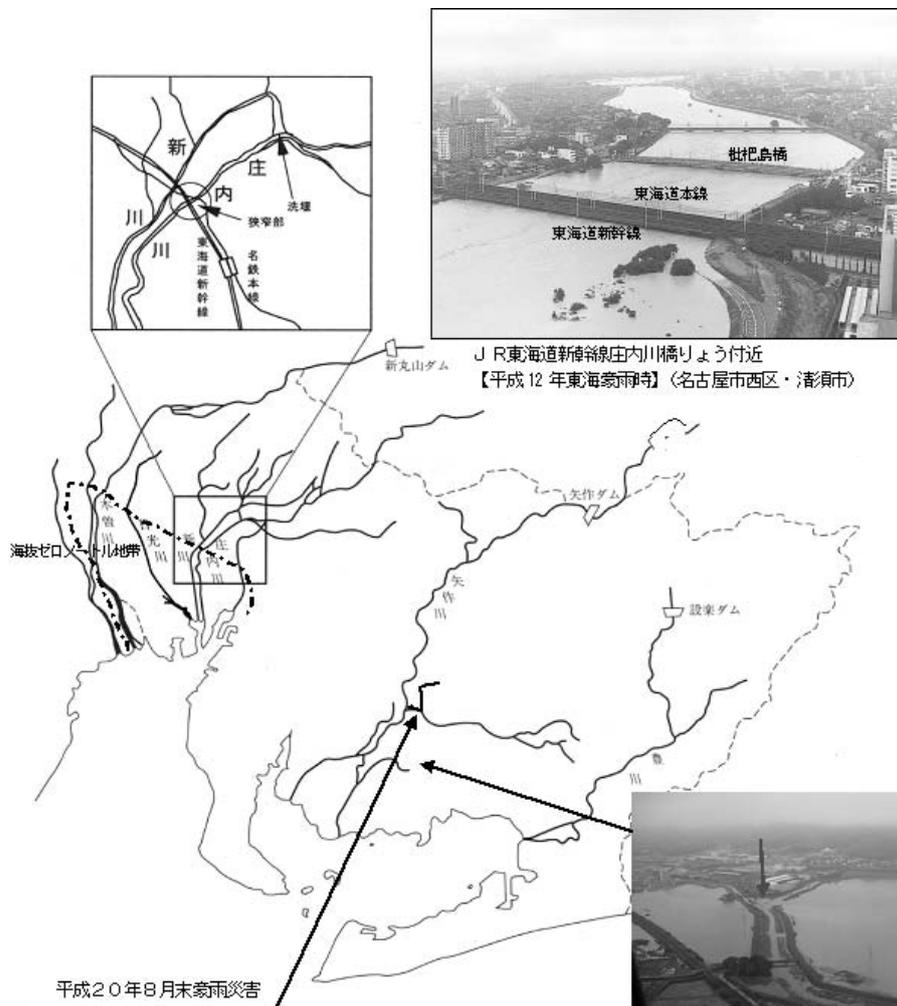
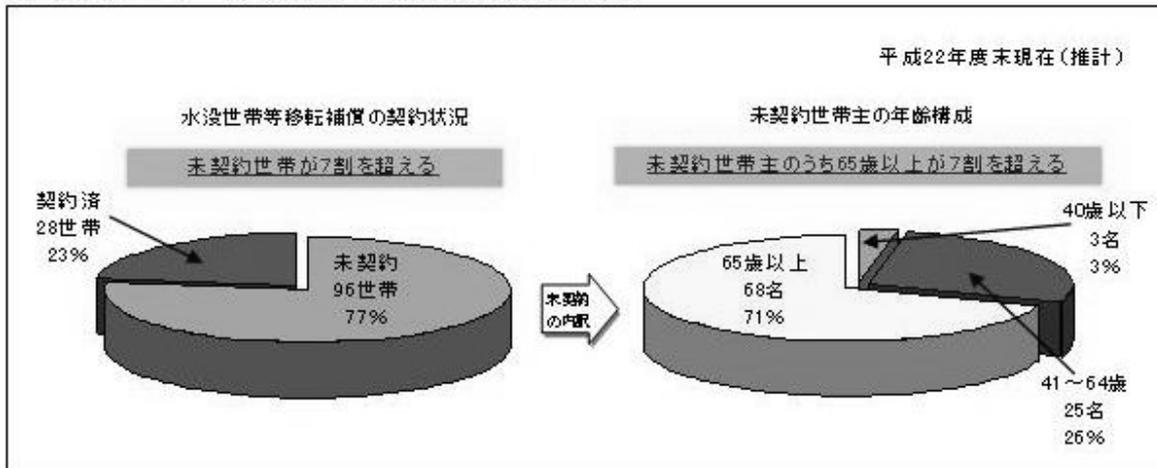
本県は、西部のゼロメートル地帯など低平地が多く、洪水の想定氾濫区域は県土のおよそ2割を占め、区域内には約300万人が居住し40兆円を超える資産が存在している。県民が安全で安心な社会生活を営むためには、河川改修、ダム建設、既存施設等の徹底的な機能確保や広域的な危機管理対策を図り、水害を軽減する必要がある。

庄内川においては、東海豪雨を契機として河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）により事業進捗が図られてきたが、西枇杷島地区の狭窄部対策や洗堰の締切り、河口部の浚渫を求める声が非常に強い。

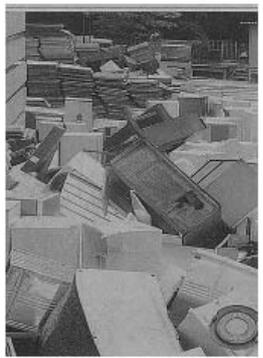
平成20年8月末豪雨では、県内各所で時間雨量100mm以上を記録し、特に岡崎市美合町では時間雨量146.5mmを記録した。同市内の伊賀川流域では浸水被害により2名の方が亡くなられた。また、広田川の破堤により広大な農地が6日間にわたって冠水したのを始め、複数の河川で越水、護岸決壊するなどとともに、約13,500世帯に及ぶ床上・床下浸水被害など平成12年の東海豪雨災害に次ぐ大災害となった。

(参 考)

●設楽ダム 水没者等の生活再建の状況



広田川の破堤状況 (額田郡幸田町)



伊賀川の出水及び被害状況 (岡崎市)